

### 3. 若者：未来への原動力

エネルギーに満ち溢れ、新しいテクノロジーに対し柔軟で、そして歴史上もっとも強く互いに繋がりが合っている若い世代がグローバルな政治と文化を形成する。

25歳未満の若者が、世界人口の43%を占め、後発開発途上国ではその割合は60%にものぼる。次の世代には親や教師となるこの年齢層の選択が、将来の人口構成を決める。つまり、若者に対して投資することにより、加速度的な発展に直結するのである。

若者が健康、教育そして適切な労働環境を得る権利を享受できれば、経済成長と社会に良い変化を生み出す原動力となる。

思春期の少女に投資することは、国の政策として最も賢い選択のひとつと言える。なぜなら健康、教育そして様々な機会を享受できる少女と女性は、十分に社会に貢献することができ、貧困の悪循環を断ち切ることができるからだ。

#### —現状—

- 12億人以上が10–19歳の思春期の若者であり、彼らは次の世代の親となる存在である。また、そのうち88%は開発途上国で暮らしている。
- 2009年末の世界の6億2,000万人の若者が労働力であるが、そのうち13%に当たる8,100万人が失業中である。これは、過去最大の人数であり、成人の失業率の平均の3倍に当たる。
- 肉親がおらず、自分たちだけで生活していたり、路上での生活を余儀なくされている若者は何百万人にもものぼる。この若者に対する性教育や仲間教育（peer mentoring）プログラム、またリプロダクティブ・ヘルスに関するサービスには特別な伝達手段が有効だと考えられている。例として挙げられるのは、寸劇（soap opera）、マンガ、ポスター、雑誌、ドラマそしてミュージック・ビデオである。
- HIV新規感染者の約40%が15–24歳の若者である。この年齢層でHIV感染に関する正しい知識が備わっている男性は40%、女性は38%である。

## —ジェンダーによる差別—

- 学校に通ってない1億4,300万人の若者のうち半分以上が少女である。
- 少女の小学校就学率は高く、少年の就学率とほぼ同じであるが、ほとんどの開発途上国では修了率は50%以下である。アフリカの19カ国においては、中学校を修了する少女は5%以下である。
- 1億から1億4,000万人の少女と女性が女性性器切除を受けており、アフリカだけをみても、300万人以上の女性がそれにより障害を負っている。
- たいていの場合、少女は家族のなかで、食糧と保健医療ケアを受ける優先順位が最も低い。開発途上国では、少女のおよそ半分が栄養不足による貧血であるため、成長障害、流産、閉塞性分娩とフィスチュラ、死産、早産そして妊産婦死亡の危険が高い。
- 15–19歳の思春期に当たる5,000万人以上の少女が既に結婚しているが、その中には生殖に関する知識をほとんど持っていない少女もいる。ほとんどの少女は中等教育を終了しておらず、多くは安全に出産するのに十分な程度までに身体が成熟する前に妊娠している。
- 毎年、1,600万人の少女が思春期のうちに母親となる。そのうちの半分は、バングラデシュ、ブラジル、コンゴ、エチオピア、インド、ナイジェリアそしてアメリカの7カ国に集中している。
- 妊娠・出産を原因とする合併症は、アフリカ及び南アジアに住む15-19歳の少女の主な死亡原因である。
- 10-14歳の少女が妊娠もしくは出産で亡くなる確率は、20-24歳の女性に比べ5倍も高く、15-19歳の少女の2倍である。これらの死亡の多くは既婚女性である。

## —最近の傾向—

- 世界的にみて思春期の若者は、以前に比べて幼少時に保健医療ケアを受ける事ができるようになったため、総じて健康になっている。思春期の若者の死因の1/3は事故死であるが、特に少年は事故死の危険性が高い。

- 思春期の間に若者の生活を脅かすものとしては、暴力、虐待そして搾取が最も多い。少年は、児童兵として、または農場で賃金を払われることなく働かされるか、もしくは危険な作業を強制される。少女は、性的な強要をされるか、結婚をさせられるか、もしくは家事労働をさせられるのである。
- 若者支援のプログラムの企画、運営に若者自身に関わると、興味深いアプローチが考案されることがある。そうした場合、プロジェクトの成功率が高まるだけでなく、若者がコミュニケーションや交渉、市民参加スキルを習得することにもつながる。
- 少女が学校に1年就学すると、産んだ子どもの死亡率を5から10%引き下げられる。5年の就学では、40%の子どもが5歳以上生きることができるようになる。
- 中学校に一年通う毎に、少年の将来における労働賃金は5~15%増えるのに対し、少女たちの場合には10~20%増える。
- 教育を受けた女性は家庭内暴力や女性性器切除などの伝統、家庭や職場、社会における差別といった虐待に屈せずに対応できる傾向にある。これらの変化は世代を超え、女性、その子ども、さらには孫世代の健康状態を改善することにもつながる。
- 2007年に国連機関は国連青少年期女子タスクフォース、(The United Nations Adolescent Girls Task Force) を設立するために集まった。これは少女が国家政策において優先されるようにするため、そして教育、保健医療、データ収集、女性に対する暴力から守るために投資を促し、少女のリーダーシップを育てるための組織である。2015年までにタスクフォースは20の開発途上国において総合的なプログラムを展開するが、エチオピア、グアテマラ、リベリア、マラウィでは既に実施されている。